



出会

第六十三号平成二十九年五月

健康道場サラ・シャンティ
神戸市灘区八幡町
3-6-19 クレアル六甲 2F
T/F: 078-802-5120

高天原神界からの日本文明論とは？

清水正博

昨年は様々な時代の変化を感じさせる事がありましたね。トランプの勝利、ドナルド・トランプの来日、小池都知事の誕生などは古いお荷物を取っ払う、戦後70年の呪縛から解放される象徴的なことでした。会報やメルマガでも書いて来ましたが、世間の情報だけでも、時代の大きな変化を感じ取る年でした。昨年のサラ・シャンティのイベントの内容も、自分でもありえないと呆れたくらい凄いことが起こり、皆さまも驚かれたことと思います。特に多忙な保江邦夫先生や矢作直樹先生がこの神戸の小さな会場に来て講演していただけるなど、あり得ない事が実現しました。

このお二人の講演が実現し、創業以来追求して来たテーマ「魂の働き」のことが20年目にして成就したわけですから、感無量です。今年でサラ・シャンティは21年目、やっとこれからが本番だと感じています。目に見えない世界を怪しい事と考えられていた時代がやっと終わり、目に見えない空

間や影・陰などの世界にこそ真実があり、神話に登場する神々やご先祖様などの魂を大切に思う心が復活して来ました。こうした世界は縄文時代から江戸時代までは当たり前だったわけですが、維新で欧米に追い付け追い越せと近代化を進める内に忘れられてしまい、戦後は故意に封印されてきました。それがやっと最先端科学の量子論から封印が解かれる時代が来たのですから、もう逆戻りはないでしょう。科学と神々の世界が統合し、神々と共生する時代の到来を実感し、楽しく語って行ける時代になることでしょう。高天原神界って何？なんて思われるかたも、思い出しただきたいです。

20年まえ細々と会社勤めをしながら始めた時には想像できなかったことですが、この間に発行してきた会報や講座案内を見ると、時代意識がどのように変化して来たか、その流れが実感できます。10年前に定年になり、やっと本格的に道場一筋で取り組めるようになり、あつという間に時間が過ぎ今年で70歳になります。でも全然歳をとる感じがしないので、老いるなんて気がせず80歳、90歳もスグに来ることでしょう。時間をわすれると老いる事もなくなる、なんていうのも新しい時代意識のせいかもしれません。こうした神々との共生意識を日本人が愛と共に世界に発信し、日本語が世界共通語になる夢を見つつ、皆様と共に長生きして人生を楽しみたいと思います。

現代は二極化が進んで対立することが多いです

が、過渡期ですから仕方がありません。バブルまでの日本は、物質至上主義を謳歌して近代化をなしとげて、世界一のお金持ちになって、ちっとも幸せになれなかったことを反省し、物から心へシフトできた訳ですが、物心両面を豊かにする方向へ日本人が上手にシフトできたのも、バブルのおかげなのだと思えます。でも今なお経済中心で動いて経済優先の構造を変えることは大変ですので、それは政治家と企業家に任せ、庶民は余分なお金を使わず、心や魂を自在に楽しく生きて、人生を有意義なものにしていきましょ。

例えば原発が止められないのは、不要だと思っ
ていても推進する政府には辛い裏事情があるので
しょう。それに文句を言っ
て反対運動をするのは
疲れます。ガンになっ
て3大療法を受けるか、
受け
ないかも自由選択の時代です。今や自然治癒の情
報が広がり、健康情報は巷に溢れていますので、
それでも3大療法を信じるなら仕方がないですね。
運動しても病気になる人、タバコを吸って長生き
する人もいます。なにを選択していかに治すかは
患者さんの運なのかもしれ
ません。あれほど免疫
学で有名な安保徹先生も
大動脈解離で突然死さ
れてしまい、お元氣だと
聞いていましたので、
寿命は無関係なのでは
しょうか？

寿命は自分で選べないとなると、天命に任せる
しかありませんが、やはり生き甲斐を求めるのが
一番。昨年11月の松野先生の講座にも沢山のガ
ン患者の方に来ていただきましたが、今回でガン

についての講演を最後にして、新たな研究生活に入られます。ガンから卒業され、次の生き甲斐を求められたのです。美味しいものを食べて、お酒も嗜み、旅行へ行ったり、好きな事に挑戦する意欲を維持するためにも生き甲斐が必要です。新しい生き方に目覚めるには好奇心が旺盛であることです。そこには健康で体力が求められます。今やそんな生き方のお手本がネット上に一杯ある時代、そこからどんな情報を選ぶかは本人次第ですが、それも運だめしかもれません。

経済が落ち込むとスポンサー離れが進むと危惧するのはマスコミで、我々はそんな情報に毒されないで、インターネットにある無尽蔵の無料情報や画像で楽しむことができます。私が発信するメルマガ「ファンティメール」情報がマスコミに流れる事はありません。でもインターネットのおかげで、愛読してくれる方がいるのはありがたいです。こうしたスピ系情報がこれほど多くなったのも、阪神大震災からの22年、さらに311以降の数々の災害による意識変化のおかげで、短時日でこれほどの意識変化を成し遂げた国は世界中で日本だけではないでしょうか。

マスコミは先行き不透明な暗い情報が多いですから、逆に素晴らしい変化に注目し、明るく前向きな情報を発信するのが私のお役目だと思っています。例えばスポーツ界を見ると一番良く分かります。20年前とくらべると、どれほどかっこいい選手が現れているでしょう。以前は下根性型で疲

労がにじみ出た胴長短足の選手が多かったのに、最近では西洋人を超える美系の人が登場してきて、人間の体型は短時日で進化するものだと分かりました。これは食生活の変化だけではなく、思いや意識による具現化なのだと思います。年をとると苦勞がシワになるとか、心が顔に出るのもそうですから、用心してください。

子供の頃からの努力の積み重ね、親子関係やその時の時代意識、生活のユトリなどが変わること、体型から顔の形まで変わるのでね。これも人類の持つ不思議な一面なのかもしれません。進化論を実証するかのように、猿や馬やゴリラになったり、鳥や魚になれる、そんな意識で競技にあった体型に育つのでしょうか。生まれてすぐに体質や個性にあった競技を選ぶのは難しいことです。日本人の生活が多様化し豊かになって、精神面での指導が進化し、それぞれの競技にあったイメージトレーニングで、スポーツを楽しんで取り組める時代になったからでしょう。

「トトロ」、ユウシカ」、魔法の宅急便」などは、音楽でも宮崎駿の作詞と作曲家・久石譲の作品がオーケストラ演奏され、その素晴らしさに感動しました。君の名は「シン・ゴジラ」など日本の映画が世界でも超人気ですし、漫画やアニメも世界中で人気を博しています。一瞬で世界にヒットした「ゴ太郎」現象も漫画的で面白いですし、芸能界の役者や音楽の世界のスターもかっこいい人が続出し、ポップ音楽でも知らない内に登場して大活

躍している若者たちに驚かされますが、世界を変え、る強大な影響力を持つインターネットが無視できない時代になりました。

世界では経済が停滞したり、戦争で破壊されたりで、生活の質が落ちて行くことが普通のようにです。日本はバブル経済の崩壊後の20数年、デフレ不況に喘ぎながらも、精神文化が著しい発展をして来たのではないのでしょうか？それは2600年の伝統の蓄積があるからで、ちよっと100年前に戻れば今以上に素晴らしい精神文化があったことを思いだせばいいだけです。お金だけではない、清く貧しく美しい心の強靭さを発揮し、芸術的な精神文化が進化し続けている事に気づきます。物質的な繁栄を十分に味わい尽くした上で得た空虚さを埋め合わせるために、精神的な豊かさで補って有り余るものが生まれ出てきています。それは日本語文化の中にある武士道精神や大和魂から私たちの潜在意識へ波動が伝わり、本領が発揮されるからでしょう。

僕がメキシコに行った頃は、身体が弱く下痢ばかりしていたので、トイレが不自由で不潔な国に出かけるのが億劫になり海外へ行かなくなりまし。それで安心安全な日本の食文化を誇りに思い、最高の国だと考えるようになったのです。ですから世界中の食材が揃い、安くて清潔で美味しい料理がある国を選ぶのは当たり前。美味しいものを追求し、熱狂的に創作してしまう日本人の拘り、おもてなし精神にあふれた日本文化に触れ、どこ

へ行っても無料で清潔なトイレに感動した人々のお話やネット上を賑わせ、日本の精神文化に憧れて来日する外国人観光客が急増しています。

311以降危惧していた福島原発から放出される放射線などがマイナスイオン要因にならずに、各地で起こる地震や豪雨、土石流の災害などがあっても観光客が増えるのは、どんな事があっても日本人はまったく意に介さないで頑張っている姿が日本の魅力として世界に伝わっていると云うことです。たび重なる災害のおかげで、経済優先と欧米文化の模倣で崩れていた日本人の美意識や民度が復活して来たような気がします。それは神話の国としての精神性の復活なのです。

何度も書いて来ましたが、311の翌年に古事記編纂1300年が来て、その翌年に伊勢・出雲の遷宮が続く中、さまざまなデキ過ぎの不思議な神様のシナリオが現れて、古事記だけではなく、ホツマツタエや大祓祝詞、カタカムナに登場する神々まで復活して来て、おかげで瀬織津姫を祀る六甲比命大善神社を訪れる人が増えていますが、芦屋市奥池の個人のお宅でイワクラが守られていたり、全国的にも埋もれていた遺跡が発見されたり、見捨てられていた神社が再興されたり、交通の不便な場所の史跡巡りがネットに紹介されたりして神々がお喜びだと思えます。

戦後のGHQの神道廃止令から古事記以前には文字がない国だとされるなど、戦後70年もマイ

ンドコントロールをされていた実情に怒りで目覚めたのは高天原の女神様たちでした。心配されている明治維新からの150年の間に失われた神仏習合の精神や江戸情緒などの美意識の消失も、女神様たちの反撃に、私たち人間が同調すれば、復活には大した時間は必要ありません。その証拠に、ホツマツタエやカタカムナの研究が一気に広がり、今や世界の文字の起源は日本だと言われ、神代文字がいくつも超スピードで登場してきました。

世界の文明の中心になった東経135度線の近くに鎮座する六甲山イワクラ周辺にはセオリツヒメ、ククリヒメ、ワカヒメを祀った広田神社、西宮戎神社、甕岩神社、生田神社があり、その六甲比命大善に祀られる瀬織津姫様が水を守る大切な神様と大祓祝詞で伝えられていますが、六甲の水が世界で有名になり、その伏流水を使った灘五郷が日本酒のメッカとして栄えたのも瀬織津姫様のおかげです。こうした高天原の三女神のお働きが、私の周辺でさらに活発化しているという神風現象が起きています。と云うことは戦後日本の現状に危機感を感じて神々がお出ましになり、神風を吹かれているということでしょう。

事実カタカムナ講座の吉野信子先生は多くの不思議現象が起こり、言葉の力の解明が進み、沖繩のユタさんの霊言で六甲山周辺の神々の遺跡が明らかになっています。それに呼応するように越智啓子先生が来られて、二宮神社の天之忍穂耳命から宣託で天穂日命を祀る芦屋神社で吉野先生

と一緒にカタカムナの言葉をテーマにして講座を開催して下さいました。こうした日本神界の女神様の働きが、多くの生徒さんの前でも具現化しているのですが、その力の集大成で日本人の意識進化が進んで来ているのです。

さらに昨年10月にはアマノコトネさんが、サラ・シャンティに来て下さいました。東京工業大学の樋口雄三教授はアマノコトネさんの特異な治癒能力や霊媒能力、霊的世界との交流に関心を持ち、平成4年より彼女の特異能力の研究を開始され、そして分析して行くうちに、それが崇高で神々しい存在のものであると確信を得て、樋口雄三教授は数々の著書をナチュラリスピリット社から出されました。その内の4つを紹介します。

天類よ魂の向上を急げ アマノコトネ

を介して開示された地球と人類の未来」

日本新生 ―アマノコトネを介して開示された

地球と人類の未来」

『これに気づけば病氣は治る―高次元医療の提唱』 日本の根幹と眞文明』

アマノコトネさんの霊言により、宮崎貞行氏、S UMIKOさんが「ワカヒメさまの超」復活」という本も書かれています。ワカヒメさまは阪神間では大切な存在の神様なので、ぜひ読んでいただきたいと思えます。

瀬織津姫さまを祀る六甲比命大善神社を発見

した大江幸久氏が書きあげた『下ノヲシテ 瀬織津姫さま言霊リメンバリング』は、アマノコトネさんを通して霊的世界から降ろして来た応答集で、サラ・シャンティで出版記念講演を開催しました。それは紀元前の六甲山周辺の生々しい生活が克明に語られ、あの世で瀬織津姫さまが生きておられるような実感が与えられる驚くような内容なのです。実際私自身もあり得ないと思っていたのですが、本を読んで日本の歴史に実在した私たちの祖先が、神話として描かれていると言う事実を認めざるを得なくなりました。

瀬織津姫は大祓祝詞に登場しますが、古事記には登場しません。アマテラスが女神になって封印されたと言われています。ホツマツタエではアマテルは男神で、瀬織津姫がお后だったからでしょうか。神仏習合や大和政権などにより書き換えられ封印されたのが、今この水瓶座の時代に復活してきたのです。なんとというタイミングでしょうか、この女神たちの復活と云う歴史的瞬間に生を与えられた私たちがどれほど幸せなことか。日本の精神文化の復活を支える縄文の女神様の躍動が、世界にも波及しているように思います。

宮崎先生の著書『驚きのコトタマ・パワー・アワ歌で元気になる』がうまれたのも、アマノコトネさんの不思議な手引きにより宮崎先生と一緒に河口浅間神社の富士講師の本庄家に導かれ、屋根裏部屋より古文書『ミカサフミ・ワカウタのアー』の一部が発見されたことによります。そこにアワ歌

の音声の意義や歌い方などが書かれていたそうです。そのおかげで日本全国アワ歌が人気なのですが、心身の波動調整や地震に対する地場調整をしたり、祈りの行事に歌われたりしています。

『アワ歌で元気になる』の巻末にアマノコトネさんの紹介と共に、地球規模の地殻変動が起きつつある中で、それを防止するコトタマとして降りてきた」と書かれています。黎明』の著者の葦原瑞穂さんが、震災後の熊本などを訪問しアワ歌で地場調整をされていたと聞きました。豊葦原瑞穂の国からお名前を頂かれた、その葦原瑞穂さんに天命が降りて来て、大切なお役目を演じられたのだと思います。ところが最近交通事故で亡くなられたと聞きました。お役目を終えられて昇天されたのかもしれない。

日本人の精神性の復活を示す例として、拓殖大学の呉善花さんは、5年ほど前は愛国心に無関心だった学生たちが、最近日本人としての誇りを取り戻した」と言われます。本屋へ行くくと神社巡りの本が増えていますが、成功している人は、なぜ神社に行くのか?」なんて本が売れ、和の成功法則」など言われていますが、それは古来からあった家族的な経営哲学や、千年以上前から残る生涯現役の日本の伝統的労働観や年功序列や終身雇用制度が失われているからでしょうか。

アマノコトネさんはこれからの「女(め)の道」を提唱されていますが、21世紀はみずがめ座の時

代の到来といわれた通りに、日本では女神様が復活してきて、世界を導くように使命を与えられた人々が続出する時代になっています。原発を乱造して経済優先主義で自然を汚す乱開発が進められてきたことで神々の怒りをもって大災害がもたらした男性原理の社会が終わり、高天原の女神たちの声が降ろされるようになって、女性原理の縄文意識を復活させようとしているようです。

私がかれほど明確に自分の使命を自覚したのはつい最近のことですが、311以降にサラ・シャンティを訪れるゲストの方々は何か直感を働かせておられる様で、なぜ来ていただけのだろう、とありがたい思いで、イベントを企画して来ました。そしてお名前を思い出して、その方の著書などを読み返したり、後からその方の経歴などを知って驚いたりしています。そんな流れで現在に至っている訳ですが、ご覧になればお分かりのように、現在私が取り組んでいる方向性や内容は、私個人の力では起こり得ないことが起こっていることにお気づきになるでしょう。

新しい日本文明論が登場

思いは実現する」と思い続けていたら、ホントにありえないことが実現するものです。昨年8月には東京大学の名誉教授・矢作直樹先生の講演会が実現し、さらに今年の1月8日にも再度来ていただきます。そして2月から保江邦夫先生の9回の連続講座が始まるのです。超ご多忙な保江先生が9回もサラ・シャンティに来られ、講座名も考えて

下さいました。題して「保江邦夫・お笑い真理塾」
「あの世とこの世をつなぐ最先端物理学理論を
笑いながら学ぶ連続漫談講義」。第1回目は2月1
3日(月)ですが、夜遅くの懇親会までお付き合
下さいませ。

保江先生は3月にノートルダム清心女子大学を
退官されますが、これまで以上にお忙しくなるで
しょうから、こんな企画が実現するなんて奇跡な
のです。保江先生は湯川秀樹先生が晩年に残した
素領域理論を最後の弟子として研究され、

「ミクロからマクロのスケールにまで適応される
統一場理論であり、超弦理論よりはるかに時代
を先駆けていたのが素領域理論なのである。完全
調和に崩れ(ゆらぎ)が起きたことよって泡が発
生し、それぞれの泡の銕型に応じた素粒子・物質
が生まれるのです」

なんて、これまでの宇宙論の常識を覆す痛快な
お話しや、数学者・岡潔先生との近しい関係など
日本の物理学会の秘話なども聞かせていただけま
す。そんな保江先生にはノーベル賞をとって戴きた
いので、多くの人に学んでいただけるよう映像を
残りDVDを作成したいと思えます。

この連続講座が予定されていたように、保江先
生は仏教哲学者の稲葉 耶季(やすえ)さんと 禪
と人をつなぐ『宇宙の大法則』を著されました。稲
葉さんは、保江先生からお話しを上手に引き出さ

れ、分かりやすく量子論や宇宙法則を平易に語ら
れます。その稲葉さんは元判事、琉球大学の法学
部教授で、退官後は臨済宗の僧籍を取得され、不
食を続けたり、ヒマラヤに学校を設立されたりと
行動的な法学者・僧侶なので、大変お堅いお人柄
のように思いますが、なんとまあ、サイババのアシ
ユムに行かれたり、「ご自分のアガステアの葉を
探しに行ったりと真正正銘のスビ系で、不思議探
究が大好きな方。ですからサイババのご縁で生ま
れたサラ・シャンティと繋がったのでしょ。

ですから僕がずっと聞きたかったサイババの物
質化現象や役行者の空間移動のことも質問され、
保江先生はきつちり解説されます。さらに保江先
生も若い頃同じだったそうですが、僕も親兄弟が
心配したほどボーツしていることが多かったので、
そのこのの意味も保江理論で解説され、今の私の
お役目が納得できました。この保江理論が普及す
れば、ボーツしている意味がまるで変わるから、
子供たちはボーツとしろと云われるかも(笑)。

さらに稲葉さんは神智学の神尾学先生ともお
知り合いなので、ここでもサラ・シャンティと繋が
りました。稲葉耶季さんは神尾先生の「秘教から
科学へ」を15年前に読んで神智学を良く理解で
きたと言われたとのこと、最近もお会いになっ
ていたそうです。保江先生も神智学やシユタイナ
ーの研究もされていて、ずばり素領域理論から説
かれています。これは全く新しい解釈なので、これ
までの思いこみがひっくり返ることになります。稲

葉さんは僕が尊敬するインド在住の大聖人・佐々
井秀嶺師のナーグプル仏教学校も手伝っておられ
ますし、不食や断食もされていて、野口法蔵師や
越智啓子先生、当道場と親しい方々と繋がってい
ますので嬉しいことです。

それらを集大成すると、新しい日本独自の歴史
観、人生観、そして医学から芸術、音楽を含め宇
宙論・生命論として日本神智学と日本文明論「ジ
ヤポニズムが完成します。その元がカタカムナ日
本語文化圏」となる。こんな風に「日本時代の幕開
け」を語る講座が集ってきています。今年のサラ・
シャンティにご期待下さい。

次の4つの文章は

- ① 大飯原発のおおい町出身、徳庄博美さんの
麗しの国・若狭よりのお便り28
- ② 福島県いわき市在住、南相馬の同慶寺住職
田中徳雲さん・慶子さんからの近況
- ③ ポディワークをする高田香代子さんからは
沖縄での福島の子供たちのキャンプに参加し
たレポート
- ④ 毎夏明石と神戸で開催の福島の子供たちの
保養キャンプを開催している小野洋さんから
はキャンプと原発への思いが語られていま
す。
- ⑤ 7 Generations Walk 代表の山田圓尚さん
からはオジブエ族のデニスバンクス師のジャ
パンツアーの報告

徳庄博美

若狭は今年も桜が終わり、山里海のエネルギーが萌えあがるうとしています。山の木々の新緑の芽は身をかがめて爆発の時期をまっています。このエネルギーは私の気持ちをウキウキさせてくれます。肌の毛穴まで喜びで開いていくのを感じます。

小浜仏国寺の禅の老師、湛玄和尚の書がいくつか私の処にあります。

「只是是」「到彼岸。今の今、全て一切をよるこぶ人は喜びの人」「今ここ、全て円（まどか）なり。いまここ誠の命。今ここ全て救われる。今ここ喜び満ちる。」

これらの禅語が今の私のこころの支えになっています。これらの書を10数年前、最初に見たときあまり感じるものがありませんでした。良く分からなかったのです。しかし今ここに語られている世界が私の人生の一番大切なものになっています。

世界は本当に激動と混沌の様相を呈してきました。良くも悪しくもいままでコントロールされてきた世界が誰のコントロールも効かなくなってきたのを感じます。ブレグジット、トランプ政権の誕生、相次ぐテロと内戦、難民、シリア空爆、北朝鮮の緊張、安保法案、憲法改定論議、戦前回帰の潮流、国有地格安払い下げ、政治家の居直り、忖度行政の記録

破棄、マスコミの政府との癒着、考えられないような犯罪、そして気象の異常・・・これからしばらくはますます混沌の流れは加速して、全く予測不可能な混乱の時代に突入していくと思います。

しかしこれは忌むべきことだけではないのかもしれない。今までの世界の体制はグローバルイズムのかげ声のもとに多国籍企業によるあくなき利益追求の体制だったのです。その結果地球の環境破壊、全世界でのコミュニティ・家庭破壊、格差、対立を世界にばらまいてきました。どう見ても持続不可能性が明らかでした。今目撃している状況はいままでこの世界体制が崩壊しはじめている姿なのだと思います。しかし私は崩壊と同時にこの混沌の中から全く新しい調和した世界が姿を現してくると感じています。

このようにコントロールが効かなくなった世界の中で湛玄老師の言葉がわたしに生きる力を与えてくれていきます。私は宇宙には進化生成発展をめざす根本的な意志があると思っています。春の自然の木々の振る舞いにもその現れを感じるのです。そしてこの宇宙意志を全面的にこの世界に顕現させるのは「只是是」の生き方だと思ふのです。すべてにOKを出して受け入れることで、さらにしたいことをしていくことでそれが可能になると思うのです。この激動の世界を「只是是」でサーフィンして行きたいと思っています。

政府は多くの国民世論にあらがって原発再稼動を進めています。大阪高裁でも高浜原

子力発電所3・4号炉の再稼動を認める判決が出されました。しかし原発ルネッサンスをうたい、原発建設で収益をあげることを社是としてきた東芝がまさにWH社の原発建設の蹟きで倒産の危機に追いやられています。又今日の毎日新聞は保守系シンクタンク「日本経済研究センター」による脱原発と原発維持の場合のコスト比較の試算を報道しています。結論は「太陽光・風力に加え、地熱、バイオマス、小型水力といった多彩な新エネルギーが普及し、さらに省エネルギーも進めば、原発を継続するよりも安く、経済的に優位になる可能性がある。」と。経産省の「原発は安い」を明確に否定しているのです。大手電力幹部すら「新增設までやる気はない」と語っています。ここにもエネルギーをめぐる未来がすでに見えはじめています。

若狭の私達は今、南川上流域活性化プロジェクトを進めています。

南川というのはおおい町と小浜市を流れ小浜湾に注ぐ川です。この南川は川好きの人から福井県・京都府の近隣の河川の中で最も美しい川だと折り紙をつけられている清流です。鮎が有名で、鮎の季節になると釣り吉で川は賑わいます。鮎の好きな方からは南川の鮎は岐阜の山奥でとれる鮎とかわらない旨さだといってもらっています。

この南川の最上流に小松ダムという砂防ダムがおよそ30年前に作られたのです。その結果ダム底に冷泥が溜まるようになり、それがダムの放水の時流れだし、川底の石や砂にま

とわりつきだしたので。川が汚れだし鮎の生育や川の生態系にも影響が生まれはじめたのです。子どもたちを川で遊ばせようと思っても堆積した泥がぬかるんで尻込みをしなければならぬ状態になりました。

また南川上流域では若者の都市部への流出による過疎化、高齢化が急速に進んでいます。

このような問題を解決していこうと今議論をすすめているのが南川上流域活性化プログラムなのです。そしてその中心になるのが日本では珍しいサイフォン方式による小水力発電なのです。ダムからサイフォン方式でダムの上層の水を汲みあげるので発電しようと考えているのです。この方式でダム湖底の泥を吸い込まず、泥を下流に放出するのを防ぎ、河川の環境を改善を狙っているのです。そして再び関西方面からの鮎釣り客で南川が賑わい、旨い鮎がとれるようにしたいと思っています。そのことで過疎化に幾分でも歯止めをかけられればと思っています。何よりも子どもたちが思いっきり川で遊ぶことができるようにしたいと思っています。また周辺の山も美しい混合林があるのでそこでも子どもたちを遊ばせ自然とのつながりを回復させたいと考えています。環境学習としても活用していきたいと思っています。

この小松ダムの小水力発電部分は81KWhの発電を予定しています。必要経費は最大1億円を見積もっています。これを市民の皆さんに市民ファンドで出資していただくよう計画しています。私達は3年前に若狭太陽光市

民共同発電所を設置し、多くの市民のみなさんに1200万円の資金をだしていただきました。しかし政府の固定価格買い取り制度では太陽光発電の買い取り価格が急速に減額されており、もはや太陽光発電では採算がとれない状況になっています。しかし同じ固定価格買い取り制度でも小水力発電による電力の買い取り価格は据え置かれており、現段階では十分に採算性が見込めています。こうして再生可能エネルギー分野でも貢献が出来れば嬉しいと考えています。このプロジェクトは福井県の一市町一エネという政策に採用してもらうため、おおい町ともタイアップして取り組みをすすめています。又みなさんの応援をいただけるとうれしいと思います。よろしくお願いします。

言葉のつむぎ方、ひもどき方

小橋がある

詩人のアーサー・ビナードさんをご存じですか？「1967」年生まれのアメリ力の方ですが、20代の頃に、ひよんなことから日本語に魅了され単身日本にやってきて、かれこれ四半世紀以上の時が流れ・・・、すっかり日本語も日本人以上に体得され、母語である英語との対比から、私たちが気がつかない日本語の面白さ、繊細さ、奥深さを伝えてくださっています。詩作もさることながら、宮澤賢治などの日本人作家の作品の英訳や、エッセイ、テレビやラジオでのトーク、そして全国各地を

訪れての講演会など、あらゆるチャンネルを通して、活発に発信をされています。

日々聞き流してしまふ言葉を、独特の鋭い感覚で捉え、その言葉の発信元の真意までも明らかにしてくれるアーサーさん。わたしも幾度かアーサーさんの講演会に行きましたが、その度に、これまで知っていたつもりであった言葉を「新たに発見」という感覚を体験しました。様々な「発見」がありましたが、今年一月の大阪での講演会での「発見」をご紹介しますと思います。昨年二月、南スーダンに派遣された自衛隊の新任務「駆け付け警護」について、ご自身も英訳された宮澤賢治の「雨ニモマケズ」の一節から。

「東ニ病氣ノコドモアレバ
行ツテ看病シテヤリ
西ニツカレタ母アレバ
行ツテソノ稲ノ束ヲ負ヒ
南ニ死ニサウナ人アレバ
行ツテコハガラナクテモイ、トイヒ
北ニケンクワヤソシヨウガアレバ
ツマラナイカラヤメロトイヒ」

病氣の子どものためには駆け付けて看病し、
疲れた母親のために駆け付けて手伝いをし、
死にそうなる人には看取りのために駆け付ける。
でも、喧嘩や訴訟には「つまらないからやめろ」と言うだけで、
賢治は駆け付けけない・・・と語ったアーサーさん。

戦争や紛争がある場に駆け付けてはいけません。巻き込まれるだけで、戦争は止まらない。暴力に暴力で対処しようとするのが、そもそもの間違いであることを、賢治は見抜いていたのかもしれない。

先月、自衛隊の南スーダンからの撤退が決まり、ひとまず胸をなで下ろしましたが、この原稿を書いている4月23日現在、核兵器と大陸間弾道ミサイルの開発を続ける北朝鮮への警告として、米艦隊が朝鮮半島沖へと向かっています。武力による解決を信じて止まないように見えるトランプ政権。現在の国際社会に「つまらないからやめろ」と言えるリーダーはいないのか・・・。

日本語と英語、日本社会とアメリカ社会を自在な視点から考察するアーサーさんに、現在の様々な問題を、日々私たちを取り巻く言葉からひもといてもらおうと、神戸での講演会を企画しました。ぜひ、講演会で「新たな発見」をご体験ください。

■アーサー・ビナード講演会 詩人アーサー・ビナードさんに聞く 言葉のつむぎ方、ひもとき方

日時：2017年5月21日(日) 14:00～16:30 (13:30開場)

場所：神戸市勤労会館(405・406号室)
参加費：800円 (原発避難者・高校生・大学生400円)

中学生以下無料、お子様連れ歓迎
*講演会は日本語で行われます。

主催：せまな原発神戸ネットワーク
問い合わせ：問合せ 小東 090-1678-1431
小橋 kaorukobashi@hotmail.com

(文筆)小橋かおる さよなら原発神戸アクシヨン・放射能社会を生きる連続セミナー担当
「花と爆弾一も、戦争の暴力はやめようよ」主宰。

沖繩 球美の里のタッチケア bodywork salon 高田 香代子

この度、サラ・シャンティさんから体験談をとお話があり、その法人 沖繩球美の里でのタッチケアの様子と、私がケアを通して感じたことをお伝えします。

私はNPO法人タッチインピースの様々な活動に参加させていただいているボランティアセラピストです。その中の活動の一つとしておおよそ一年に一度くらいのペースで参加しています。

沖繩球美の里ではほぼ毎月、福島や宮城から子供達が健康維持を目的とした保養にやってきました。今回は夏休み期間中の保養でしたので、小学1年生から中学2年生の50名の学童保養でした。

保養期間中は小さな子どもでも掃除、洗濯、お風呂もボランティアスタッフに手伝ってもらいながらですが、自分でやります。お友達ばかりでは無い環境で、うまくいかないことも、恥ずかしことも

乗り越えて過ごすたくさんのチャレンジがあります。

おうちに帰ってお母さんやお父さんにひとりでもできるようなった事を自慢していることが想像できるくらいみんなめざましく自立していきま

す。
私はおおよそ10日間の間、寝食を共にしながらひとりひとりに約15分〜20分のタッチケアをします。子ども達の社会性の中で、馴染みやすい子ども、マイペースな子ども、シャイな子どもなど様々ですが、ひとりづつしっかり向き合うので、ケアームは自然と子ども達のひと息つく場になって来ます。

あえて原発の事や日常の不安を聞き出す事もしませんし、子ども達が話してくる事もまれです。悩みを言わなくても何か理由をつけて触ってもらいたがったり、騒ぎに来たり、本当に不安でなんとかして欲しくてやって来たりという状況です。

その訴えに対して一緒に取り組んでいくうちに、不思議と距離が近くなるようです。

集団生活である程度の規律があるので不自由さを感じる子どももいるのですが、ケアームだけはちよつと中立で関西弁しゃべるおばちゃんがよくわからへんけど気持ちいいケアしてくれたり、話さしてくれたり自分で言うのもなんですけどタッチケアは人気のあるプログラムのひとつです。

また、保養期間中に必ず甲状腺のエコー検査があります。検査結果はしっかりと親御さんに引き

継がれます。球美の里さんのご好意で、私も体験させてもらいましたが、首にジェルを塗布して診察していただく流れは大人でもなんとなく緊張しました。

チエルノブイリ原発事故後ベラルーシは現在でもその保養が続けられていると聞きますので、日本もとても息の長い継続が必要ですし、今現在の子ども健康状態に必要なケアというのを都度検証が必要になるのではないかと個人的に感じています。

そんな中で個人ができることとして正直なところ少ないと思います。しかしあなたに関心があります、愛しいです」という気持ちを持って触れることが技術を使うよりも早く心身を解きほぐしてくれるなあ実感しています。

癒す」ということの本来に根源的な在り方を私は子どもからプレゼントしてもらっていると感じています。残念なことはひとりにかける時間が限られていることです。しかし一期一会、縁があつて出会った子ども達の心身に生きる事に対しての肯定感、安心感が伝わるようなタッチやハグ、愛情を乗せた言葉を少しでも届けたいなと思います。

HP kayoko-csbjindo.com

たご焼きキャンプの作り方?)
これまでの歩みをふりかえって

小野 洋

原発と保養はイコールではない



保養の受け入れ団体の中には、主要なメンバーがもともと原発の考え方を持っていたため、起きてしまった事故に大きなショックを受け、深い悔悟の思いを持って取り組んでいるところもあります。僕自身も以前、原発に危機感を持ち、原発の運動に加わったこともあり。今、被災地の現状を知れば知るほど、なぜ原発などというものを作ってしまったのか、これだけのことが起きたのに何故また原発を動かそうとするのか、という暗澹たる怒り、やるせない思いがこみあげます。

しかし、保養と原発運動とは一定の線引きをして、活動として混同しないよう心掛けることが必要だと思っています。

最初の年に、こんなことがありました。ボランティアの中に、子どもが病気になるれば進んで車で搬送し、荷物運びなど地味な仕事も嫌がらず熱心にやってくれる学生がいました。その学生が、スタッフと一緒に荷物を運んでいる時に、ほんとに福島は大変ですねー。でも、原発は必要ですよね。」と言ったそうです。原発の考え方を強く持つそのスタッフは、びっくりして荷物を落としそうになったそうです。

しかし、僕は、その話を聞いて、とてもいいなあと思いました。原発そのものに対する考え方はいろいろなわけで、落ち着いて話し合える機会があればいい。しかし、現実に事故が起きてしまった中で、

原発に対する考え方はどうあれ、被災者の立場に立って動いてくれた、この学生さんの存在をとてもうれしく思ったのです。原発に賛成する人も反対する人も、ひとたび事故が起これば、同じように被害を受けます。原発事故の被害を被災地の人たちだけに押し付けるのではなく、安全な場所にいる人たちも何らかの形で共に引き受けようとする、そういう社会であってほしいと思います。

また、以前、キャンプに参加したお母さんに現地のお話を支援者の方にもたらう機会を持った時に、福島の人たちは原発についてどのように考えるようになったのか」という質問が出ました。その時、一人のお母さんが「私たちは原発事故のせいで、本当にたいへんな思いをしています、だからと言って、みんながみんな原発に反対ではないんです。原発がなくなったら困ると思っている人もいます、福島に住む人にもさまざま考え方があって、福島の状況はどうするかという問題が大きすぎて、原発の是非などを考える余裕がない、と言っ親がいました。

もちろん、事故以前とは原発に対する考え方が大きく変わった福島の方もたくさんいると思います。以前のキャンプで、子どもたちがほんとにこんなことが起きたのに、まだ原発動かすなんて信じられないよね」と話しているのをスタッフが耳にしたこともありました。

原発が存在し、事故を起こしたがゆえに、保養が必要になってしまったというのは、まぎれもまない事実です。しかしそれはそれ、保養は原発事故の被災者支援活動被災者とともに事故の被害を共有するいとなみです。私自身は、福島原発事故の責任を誰もきちんと取るうとしない、被災者（被害者）へ補償や救済がいい加減な形でしかされていない、そんな中でこの大事件を忘れ去る方向に世の中が動いていること、それをこそなんとかしなければ、と強く思っています。

放射能の直接・間接の影響から子どもたちの成長を守ることに、その一点で仲間とともに歩んでいこうと思います。

もう一つの可能性

… 自然体験、そして子ども群れの体験

福島（およびその周辺の地域）では、放射能の危険性についての考え方は違って、多くの親が何かしらの不安を感じ、安心な場所で自然に触れてほしいと考えているのではないかと思います。

室内遊び場もあちこちにあり、校庭も除染され、一時期心配された福島の子どもの体力低下も学校などの取り組みで回復してきたと聞いています。しかし、それだけがいいのでしょうか。

たこ焼きキャンプでも、初めて海に入った、こんなにたくさんのお虫に触ったのは初めて、という子どもがいました。保養は本来、被ばくの軽減が目的ですが、自然とのふれあいを補う役割も大きくな

ってきています。子どもが自然とまったく触れ合わずに育つ…それが発達上、どういう影響を及ぼすかについて、はつきりとはわかりません。しかし、少なくとも今いる大人の多くが自然の中で転がりまわって遊ぶ体験や、都会でも路地裏などの屋外で思い切り遊んだ経験をしているのではないかと思います。自然体験、屋外遊びが子どもたちの成長にとって必要なのではないのでしょうか。

日本初のプレイパーク（公園などで事故の責任を自分で引き受けて自由に遊ぶ場）の創設者の一人である天野秀昭さんが、自然の中での遊びでは「環すこと」ができる」とおっしゃっていました。この言葉に大きなヒントがあると思います。

今は室内でゲーム機などで遊ぶ子どもが増えている、野外遊びや自然体験の不足が日本中で心配される状況にあります。自然体験の機会の提供は、日本の子ども全体に必要なのかもしれませんが。

もう一つ、たこ焼きキャンプが、親御さんたちに高く評価されている点があります。それは、長期間の共同生活で、子どもたちがしっかりと、たくましくなった、という評価です。たこ焼きキャンプでは、たとえ小学校一年生であっても自分の身の周りのことを自分でしなければなりません。また、グループでたこ飯を作る当番も回ってきます。同じ年代の子たちと、長時間新幹線に乗ってやってきて、見ず知らずの大人の世話になって何日も過ごすことだけでもたいへんな経験です。

そして、子どもたち同士の逃げ場のない共同生活の中で、時に新しい友と出会い、時に激しくぶつかり合います。そうしたことも今の子どもたちがなかなか体験できないことの一つです。

人との関わり方に困難を持つ子ども・大人が増えているといわれています。たった二週間弱の共同生活ですが、人間関係について、子どもたちが多くのことを学んでいくのをスタッフは目撃しています。激しくぶつかった子ども同士が、いつの間にかとても仲のいい友達になった、というドラマもありました。そんなドラマがあるからこそ、福島の駅でのお別れの際に、帰るのが嫌で、涙をこらえたり、家に帰った途端、大泣きする子どもがいるのだと思います。

長期の共同生活をする子どもたちのキャンプが、一つの教育の場として、日本全国に広がってもいいのではないかと、思うことがあります。

デニスバンクス

ジャンパニャー2016を終えて

7 Generations Walk 代表 山田 尚

2011年の11月にサラシャンティさんにもご訪問いただき交流イベントをしたこともある、アメリカインディアンムーブメントの共同創始者で、今すでに伝説の人となっているインディアンの長老、デニスバンクス師が今年も来日し、日本でツアーを行いました。

私達7Generations Walkはそのツアーの企画と運

営を担当し、伝説のインディアンが今あなたに伝えたいこと」という題で11月10日から23日まで全国8箇所を巡るツアーをしました。お陰様でツアーは無事に終了し、デニス師は精力的に愛とエナジーとユーモアをもって、各会場で、それぞれにメッセージを伝えてくださいました。その中でもツアー中共通して伝えられた、芯になるメッセージを、通訳をしながら山田が一番近くで聞きながら書きとめたノートをもとにメッセージをまとめてみました。ぜひ、「一読くださいませ。

以下デニス師のメッセージの要約です。

今、私達は水を守る為にスタンディングロックで戦っています。スタンディングロックはノースダコタ州にあるスー族の聖地です。そこにダコタパイプラインというオイルのパイプラインが通る計画があります。そのパイプラインはスー族のご先祖様のお墓の上を通ることになっていまして彼らはこの工事に反対しました。そして、このパイプラインはミズーリ川の下を通ることになっているのですが、もしも、地下でこのパイプからオイルが漏れて川が汚染された場合、この川の水を利用している約1800万人の人に影響が及びます。

今年の4月1日からスー族の人達がここでキャンプをしてパイプライン反対の座り込みを始めました。最初は20人だったのが1週間で約100人になり、今は9000人から1万人の人がここでキャンプして活動しています。これから冬が来ると

とても寒くなるのですが工事が継続することを聞いて、私達もキャンプを続けることにしました。

そこには多くの若者が集っています。彼らはここに来るために、移動費や服や靴やいろいろなものを自分で調達してここに集ってくるのですが、一度ここに来ると多くの若者が帰りたくなくなってしまうのです。もちろん、それはこの問題が重要であることも原因なのですが、沢山の部族の人達が集っているので色々な祈りのドラムや歌を聞くことが出来るということも大きな原因と感じています。

そして、彼らが聞いているのは、単にドラムや歌声ということではなく、かつて、ネイティブの戦士たちが発していた音を聞いているのだと思います。彼らはそのことを感じていて、その音が彼らをそこから離れたくない気持ちにさせているのです。集っている若者達の世代はちょうどかつてネイティブ達が成長し戦士になった世代です。

このスタンディングロックで戦士の文化が蘇っています。(ネイティブの文化では戦士と兵士の違いを明確に認識し、戦士になることを奨励します。兵士は命令に従い、人殺しでもなんでもする人。戦士は自分の心に従い他人の為に働く人を意味します)私達オジブエ族は戦士のことを「オゲチダ」といいます。



オゲチダの役割はコミュニティの為に木を運び、水を運ぶことです。して長老や病人や妊婦さんの為に狩りをし食事を用意します。太鼓を作ったり、薬草を取りにいったり先見の目をもって皆の為に自主的に率先して働きます。そして、コミュニティを敵や病氣から守ることも大きな役割の一つです。現在は白人社会がもたらした、酒やドラッグなどという問題を解決することも大切な仕事になっていきます。

そしてオゲチダイクエという女性の戦士もいます。彼女達はシングルマザーや妊婦、長老や病人や助けが必要な人達の為に料理をしたりお世話をしたりします。もちろん、村を病から守ったりするのも役目です。私達オジブエ族、そしてオゲチダの人達には生きる指針として伝えられている美德があります。

それは Respect (尊敬) Love (愛) Honesty (誠実) Humility (謙虚) Courage (勇氣) Truth (真実) Wisdom (智慧) の七つです。オゲチダになる為の規則や資格はありませんが、このような美德を持つ人をお手本にして生きることを求められ実践していたのです。

私は世界中の部族もどのような美德を持っているのか調べてみました。北米、中米、南米の部族は もちろんですが北極圏のサーミ族、日本のアイヌ、オーストラリアのアボリジニ、ニュージーランドのマオリ族など多くの部族に共通点がありました。そ

して、もう少し調べて見ますと日本の侍の美德についても知ることができました。(義勇 仁 礼 信 智 など) オゲチダの美德と侍の美德は特に似ているなど感じました。

何故、何百年も前から、何千キロも離れた、オジブエ族の美德と日本の侍の美德がここまで似ているのか？ 私はその答えをあることをきっかけに見出すことができました。それは、私達オジブエ族の民も日本の民も蒙古斑を持って産まれて来ることを知ったからです。

日本とオジブエ族の民、私達は同じDNAを共有していて、親戚なのですから繋がっていて、同じ美德を共有しているのだと思います。今こそ、過去に忘れ去られてしまっている、美德や DNA の記憶に手を伸ばし、それをまた目の前に持って来て蘇らせるべきなのです。最近では武士道という本を読んでいます。その意義を学び深く共感しています。しかし、その中にどうしても共感できない部分がありました。それは女性に対しての考え方です。戦争を基本とする文化は女性を虐げてしまうことが多いようです。それは、日本だけでなくヨーロッパでも同じことが言えます。アメリカにきた侵略者も同じでした。男性中心の価値観で世界を征服しようとしてきました。

しかしネイティブは女性を中心とした社会が培われてきました。クラン(氏族)とクランマザーによるコミュニティ運営がその例です。ネイティブはサン

ダンスなどの祈りや生き方を通して私達は女性を命を産み出す創造主として尊重し全ての生命の中でもっとも聖なるものと考えています。それは、人間の女性ということだけでなく動物達や自然界に溢れる女性性も同じように考えています。

なので、私達は地球を母として尊重し月を祖母として敬っています。私達は皆、母なる地球の上に育まれている、同じ生命です。私は

山の一部であり 川の一部です
海の一部であり 鷹の一部です
バッファローの一部であり

全ての動物や
鳥や魚や微生物
木々や草花の一部です

ですから、私達は大地を守り水を守り空気を守らなければならないのです。



オゲチダの文化は今も生きていて水を守る戦いスタンディングロックは私達にとって大きな意味を持っています。スタンディングロックが陥落することとは、私達が倒れることを意味しています。スタンディングロックが死にたえることは、私達が充分な活動しなかったことを意味し、私達の死を意味します。

私達はスタンディングロックを一人で死なせはしません。私達とスタンディングロックは一つであり、私達自身なのです。スタンディングロックと共に立ち上がりましょう。

以上、デニス師のメッセージの要約でした

ネイティブは水の為に命の為に再び立ち上がりました。私達は？ 福島から放射能汚染水は流れ続けています。リニアモーターカーの建設であちこちにトンネルが掘られ危険のもとに聖なる山や自然を破壊しようとしています。期限切れだった上関原発予定地の埋め立て許可が、何故か再発行され、この期に及んで、原発をさらに建設する流れがあります。憲法の問題、戦争の問題私は母なる地球の愛と命としての誇りと共にもう一度立ち上がるうと思えます。祈りと共に、立ち上がりましょう！

これからもデニス師やネイティブのスピリットをリスペクトしスタンディングロックもサポートしながら 7 Generations Walk の活動も充実させていきたいです。ぜひHPをご覧頂きまして一緒に活動していただけたらと思います。どうぞよろしくお願ひします。

ホームタクエオヤシン

- ④水曜姿育クラスの上根晴美さんの体験談
 ⑤陰ヨガ講師、田中綾さんからの教室紹介

伊勢かみの便り No.12

吉田 博明

「伊勢に行きたい 伊勢路が見たい
 せめて一生に一度でも」

わしが国さは お伊勢が遠い

お伊勢恋しや参りたや」

とは、伊勢音頭に詠われている一節です。



江戸時代、万物の根源として、太陽に象徴された天照大御神が鎮座した「伊勢神宮」には、全国から年間500万人(日本人の6人に一人)が訪れました。当時、参拝客の旅のお世話をしたのが、「伊勢神宮」に奉仕する神官で、御師(おんし)と呼ばれていた人たちでした。御師は各自が御師邸を構え、最盛期には、「伊勢神宮」内宮の門前町・宇治地区に200人、外宮の山田地区に600人いたそうです。御師には、全国に個々に振り分け

られた担当地区が定められていました。現在、山田地区には、伊勢市で唯一、1866年の火災により焼失し、復元された御師・丸岡宗太夫邸が、歴史・文化遺産として一般公開されています。丸岡宗太夫は、大阪や信州に8000件の檀家を持ち、邸内に50人収容できる中規模の御師でした。

過日、第18代目を受け継ぐ丸岡正之氏の案内で邸内を見学した際、古文書や什器備品に接したり、御師が参拝客に対してプロデュースした、伊勢滞在6日間の出迎え・参宮・神楽の主催 周辺の観光案内・見送りまでの記録を目にし、担当地域の

言葉・食文化・生活習慣に配慮した気配りと用意周到な「おもてなし」の奥深さに感銘をうけました。

特に、あわびや鯛などの素材を活かした料理や煎り酒などの調味料、山海の食材全12品目、4膳の献立には目を見張らせられました。当日、復元された献立の一部を試食しましたが、おいしさだけでなく、栄養バランスの整ったヘルシーな料理に、アメリカで政府決定された食のガイドライン(マクガバン・レポート)のモデルとなったことや、和食がユネスコの世界無形文化遺産に登録された背景をうかがい知ることができました。

保存されていた古文書には日常を離れた夢のような伊勢滞在中の費用は、現在換算でひとり当たり36万円相当であったとの記録が残されています。ある担当地域からの参拝グループ17人分の費用は600万円、当時「お伊勢参り」道中の往復26日間の諸費用を加えると、総額1000万円に達したと推測されるとのことでした。このため、御師は担当地域の町村の中に、各自が一定の出資金を出し合う「伊勢講」を組織し、その積立金で、代表者が交代で「お伊勢参り」に出かけられるシステムを作りました。

そして、毎年檀家まいりに出向いた際には、農作業の時期などに関する「伊勢暦」神宮の御札(おふだ)「伊勢白粉」「伊勢根付」などのお土産を持参するなど、担当地域の人々との密接なコミュニケーションを築いていました。御師は「伊勢講」とおとして、旅行代理店業務や全国津々浦々まで「お伊勢さん」と親しみを込めて呼ばれていた精神

的よりどころとしての伊勢信仰を広めるなど、「伊勢神宮」の外交・広報活動の役割を果たしていました。このほか、御師は、絶大な信用をもとに、貨幣(金貨、銀貨、銅貨)の代わりに、預かり手形として、日本初の紙幣である「山田羽書(やまだはがき)」を発行しました。

当時、外宮に近い河崎(かわさき)の町は、勢田川の水運を利用して、伊勢湾經由の船で、全国各地から生活物資が運ばれてきていて、大きな問屋街が形成され、「伊勢神宮」の門前町を支える「伊勢の台所」として、発展していました。「山田羽書」は、問屋街での商人と仕入先との食材や日用雑貨、お酒などの取引で、代金決済に使われました。これは、江戸時代から1871年(明治4年)に御師制度が廃止になるまで流通し、現在の地域通貨の先駆けの機能を果たしました。ちなみに、現在でも河崎では伊勢の特徴的な古い商家や蔵が立ち並び、風情の中に、昔ながらの変わらぬ暮らしを垣間見ることが出来ます。

「お伊勢参り」は、江戸時代、①参勤交代制度で交通路や旅籠が整備されていたこと ②伊勢神宮」の外宮と内宮を結ぶ古市街道には妓楼や芝居小屋が立ち並び、娯楽街が存在していたこと ③農耕民族として、長期の農閑期が活用できたこと ④東海道中膝栗毛」などの旅行本がベストセラーになっていたことなどの時代背景の後押しを受けていたとはいえ、御師の多面的な「おもてなし」に支えられていたといえるでしょう。特に、人・モノ・地域に付随していた個別情報を活かして、人と地域を結び付けた手作りのネットワークやマーケティング能力は、現代でも観光・娯楽面で学ぶべき多

くの視点を示唆しているのではないだろうか。

ところで、伊勢に七度(ななたび) 熊野へ三度(さんど)とは、十返舎一九の東海道中膝栗毛の一節です。江戸時代、お伊勢参り」参拝客の中には、伊勢神宮」から更に、熊野古道伊勢路を歩いて、はるか熊野三山を目指して、熊野詣へと向かいました。熊野詣とは熊野本宮大社」熊野速玉大社」熊野那智大社」那智山青岸渡寺」への巡礼の旅のことです。

当時、日本の辺境だった熊野は、神話の時代から自然崇拜に起源をもつ原始神道・仏教(浄土教)・修験道(山岳修業)などの多様な信仰が息づく祈りと蘇りの聖地でした。平安時代、お伊勢参り(伊勢信仰)と熊野詣(熊野信仰)の融合(神仏習合)の浸透により、熊野詣」は全国的に広がりました。2004年、三重県、和歌山県、奈良県の県境に連なる山岳地帯の熊野三山、吉野大峯・高野山の三つの霊場と所属する神社・仏閣および熊野古道伊勢路(三重県)、小辺路・中辺路・大辺路(和歌山県)、吉野大峯奥駈道(奈良県)の五つの参詣道が「紀伊山地の霊場と参詣道」として、ユネスコ世界遺産に登録されました。

1980年、三重県と奈良県にまたがった天台ヶ原・大峯山」が志賀高原、屋久島・白山と共に、日本で初めて、ユネスコ・エコパークに認定されました。認定地域は大台町(三重県)・五條市・上北山村・下北山村・川上村・天川村・十津川村(奈良県)の1市1町5村の山岳地帯でした。

ユネスコ・エコパークとは、豊かな生態系の保全や生物多様性を守りながら、文化的・経済的・社会的に持続可能な「自然と人間社会」の共生を目指すそうと、国連で始められた取り組みです。従来、認定地域内には、主な役割として、生物多様性と生態系を保全する核心地域、学術的研究・調査、エコツーリズム、環境教育の場としての緩衝地域が義務付けられていました。その後、1995年からは隣接した地域で新たに、暮らしのモデルとなる地域や経済活動を推進させる地域として、移行地域が設けられ、追加認定の対象となりました。

これを受けて、三重県と奈良県は、ユネスコにすでに認定されていた天台ヶ原・大峯山」に移行地域も追加拡張するための申請書を提出しました。2016年3月、ペルーで開催されたユネスコの理事会で、従来からの地域に加えて、大台町、川上村、上北山村、天川村全域と五條市、十津川村、下北山村の一部が拡張登録されました。このため、大台町では、前回大台ヶ原の一部として登録されていた大杉谷を独立して強調するため、名称もユネスコ・エコパーク「大台ヶ原・大峯山・大杉谷」と改称されました。

2007年、トヨタ自動車は大台町で山林王として一世代を築いた桑名の諸戸家から1702haの森林を取得しました。社会貢献の一環として、人出不足などから衰退の一途をたどっていた林業の再生を支援するためです。三重県をはじめ、大台町や宮川森林組合などの協力を得て、トヨタ三重宮川山林50年計画」をスタートさせました。計画推進には、トヨタの海外植林経験や製造工程で培ったムダ・ムリ・ムラなどの作業改善ノウハウ・生

産方式・ロボットなどの機械化技術、更に、衛星測位システム(GPS)など最新の技術が導入され、管理面を(株)森林再生システム、実務を諸戸林友(株)が担当しました。

今後、植林や伐採面だけでなく、集成材加工技術(CLT)や設備が導入され、木材加工の標準化」見える化」に拍車がかかるはずで、そして、いずれ木質住宅の普及やマーケットを整えることで、林業の6次産業化が促進され、時空を超えた300年単位の事業へと発展する可能性が見えてきました。

また、日本三大秘境の一つに数えられる大杉谷、水質日本一の清流宮川流域を抱える大台町では、これからの情報化・グローバル化時代に求められている知識・技能に代わって、判断力・創造力・構想力育成のベースとなる五感五味を鍛え、身体感覚を取り戻すための教育の場として、環境・自然体験教室・グリーンツーリズム・アウトドアスポーツなどの取り組みが始まっています。今後、個人が自ら考え、判断し、行動する自主性を尊重した森の幼稚園、森の学校、森の養護施設などが充実して来れば、自然と人間」社会の共生を目指したモデルとなる可能性を秘めた地域といえるでしょう。

ホツマツタエ再発見50プロジェクトを展る

サラシャンティ スタッフ 瑠璃

この秋、ホツマツタエは

再発見から50年目の

節目を迎えました。
それを記念して大きな
イベントが開かれました。



ひとつは、10月11日(火)日本記者クラブ(東京)での「ホツマツタエ再発見50年記念フォーラム」です。ホツマ研究最前線の同人誌「櫻証ホツマツタエ」に寄稿されている先生方の基調講演と研究者と愛好家たちが交り合い垣根を超えた懇親会での交流がメインの楽しいフォーラムでした。

もうひとつは、11(土)〜20(日)に開催された「再発見50高島 ホツマツタエ 縄文ロマンの集い」が開催されました。場所は高島市「藤樹の里・文化芸術会館」です。地元の方々との交流と、ホツマの聖地・高島に纏わる神話伝承を先生方からたくさんお聞きしてあらためて琵琶湖周辺の魅力に触れることができた有意義な学びの集いとなりました。

どうして滋賀県高島市で開催されたのでしょうか? ホツマツタエを「存じない方は、きつと疑問に思われることでしょう。」

著書「はじめてのホツマツタエ」を書かれた今村聰夫先生のお言葉を借りて説明してみます。

初代天神・国常立(クニトコタチ)は日本の国名である常世国を作り上げて天に帰りました。

常世国は8つの州からなり、国常立の8人の皇子たち「下・ホ・カ・ミ・エ・ヒ・タ・メ」が均等の立場

で各々一州を治めていきました。州単位では手に負えない大きな課題が持ち上がると、8人の会議で解決していったとされています。この8人を総称して、「二代天神・国狭槌命(クニサツチ)」と呼ぶそうです。

高島には、「国狭槌神社 安曇川町下小川鎮座」・「国狭槌神社 マキノ町白谷鎮座」と、国狭槌神社は二か所あるそうです。

このように、東北(日高見)から始まり建国事業に関わっていた古い縄文神たちは、高島の地に現代まで手厚く祭られて顕彰されてきたようです。他にも、酒造の祖であるササナミ神や、船を最初に造ったシマツヒコを代表とする六つ船魂神も高島の安曇川周辺に祀られています。「二神(イザナギ・イザナミ)の国中柱としてアワウタを歌い民を教え導いた時代も、ここ、淡海の沖壺が政の中核でありました。そういうわけで、琵琶湖の周辺・高島から縄文叙事詩「ホツマツタエ」は大きく花開いていくのです。私たちの魂のルーツがそこにあります。ぜひ、これからも多くの皆様に、ホツマツタエの真髄に触れていただきたいと願っています。

東京フォーラムと、聖地高島での、ふたつのホツマツタエ50年再発見プロジェクトに参加して、いま私たちは、新しい50年へのスタートに立っているということを強く感じました。

ホツマツタエの復興には百年を要すると、再発見された故・松本善之助翁は語られていたそうです。

ようやく半分の50年を迎えて、確かな兆しが見えてきました。私はこれからの50年を「やまと心」の本質を知り、これから発信していく一人として歩いていきたいと思っています。

サラ・シャンティでは「言霊」について探求されている先生方がこれまでたくさん講演をされました。林英臣先生の「古事記・やまと言葉伝説」、昌原容成先生の「日本語は神である」、大下伸悦先生の「言霊学」、土居正明先生のカタカムナ歴史講話、吉野信子先生のカタカムナ、野坂礼子先生の「ありがと」の感謝行、宮崎貞行先生の「あわうたで元気になる」、中山博さんやあんじんさんの「アワ歌の響き」、大江幸久先生とアマノコトネさんの「フノオシテ瀬織津姫さまりメンバリング」...など。

これまで講演会やワークショップで語られ、歌われてきたその響きと調べは、私には、ホツマツタエの「下の教え」に通じる「言霊」の源流・真髄を成している素晴らしい学びの会であったと感じています。これからも、ますます盛況に続いていくことでしょう。

しわかみの「こころほつまと」なるときは
はなさくみよの「はるやきぬらん」
甕上の「心ほつまと 成る時は 花咲く代の
春や来ぬらん』

いそのはの「まさこはよみて つくるとも ほと
まのみちは いくよつきせし」

磯の地の 真砂は熟みて 尽くるとも ほつまの道は 幾代尽きせし』

オオタタネコ奉呈文 ほつま伝えを展ぶ』より
新時代への願いを込めて

2017年からサラ・シャンティでも やまとの心復興に向けて、一同尽力していけるように頑張りたいと思っています。志を同じくする皆様とともに、一緒にやっつけていきますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

最後に、この会報をご覧の皆様は、すでに「このことかと思いますが、あらためて、ホツマ文献について書いておこうと思います。」

●太古の縄文叙事詩・ホツマツタエとは？

・漢字以前の縄文古代文字(ヲシテ)で記された やまとことば』の原型を顕す12万余字の文書です。

・淡海の北西部に位置する高島市には、五七調で綴られた太古日本の叙事詩「ホツマツタエ」が伝承されてきました。

・その再発見は、50年前に遡ります。

・自由国民社(下ラツカー現代の経営』や現代用語の基礎知識』発刊時の)編集長を務めた故・松本善之助翁が、1966年8月、神田古書店で「ホツマツタエ」3アヤ(章)分(小笠原長武、奉呈本)を発見されたところから一連のホツマツタエ

研究はスタートしました。

その後も松本先生は、1967年、四国宇和島の旧家小笠原家分家(小笠原長種)で「ホツマツタエ」17アヤ40アヤと「フトマニ」全巻(小笠原長武本)を発見されます。

・同時期に分家小笠原長恭宅で「ホツマツタエ」全40アヤ(小笠原長弘本)も相次いで発見されます。

・1973年、滋賀県高島市の野々村直大宅で『カサフミ』9アヤ分「三輪容隠直筆」と「フトマニ」の異本を入手。

・さらに1992年5月、滋賀県高島市安曇川町西万木在住の井保孝夫氏から松本先生への連絡により、『霧真政傳紀』(和仁佑安聴自筆漢訳付)全40アヤの完本が発見されました。

・また「覆刻版ホツマツタエ」(小笠原長弘本)の上梓は、のちの「ホツマツタエ」研究発展に重大な影響を与えることとなります。

・松本先生は、その後も「ホツマツタエ」への情熱は尽きることなく、全国各地での勉強会や講演、執筆活動でその普及に尽力され、2003年4月7日に惜しまれつつ逝去されました。現在は、その貢献が結実を迎え、日本各地にたくさんの方の研究者が生まれて活躍されています。

・松本先生の功績を引き継ぐかたちで、新時代の「やまと心」復活への礎を築く愛好者たちが集い、歌い踊り、各々が得意とする技能を持って日々の研鑽を重ねることで、日本全体に光りを注ぎ

つづけています。

オーガニックフィルム&マルシェ

タネからのメッセージ

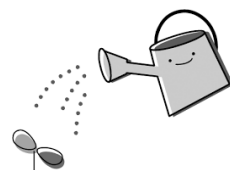
オーガニックのついでに2016

実行委員会 横山 節子

小さなタネは大きく育ち私たちの命を支えています。タネを知り、守り、育て、食べ物の未来が安全で豊かになってほしい。この映画祭がきっかけとなり、そんな新しい未来への種蒔きが広がっていくことを願って…。こんな思いをこめて、兵庫県有機農業ネットワーク会議のメンバーで委員会を立ち上げ、一年という時間をかけて話し合いを積み開催した映画祭でした。有機農産物やオーガニックな生産品のマルシェ、有機農業に関わる人々、環境問題に興味ある人、安心安全な商品を作る人・求める人が集う1日となりました。

映画1 ハバ遺伝子組み換えってなあに

三人の子供をもったことで食について考えるようになった映画監督のジェレミーは、種が大好きな長男の影響で、遺伝子組み換え生物GMOに興味をもち、家族とともに遺伝子組み換え食品の謎を解く旅に出ます。遺伝子組み換え市場シェア90%のモンサントや、ノルウエーの種保管の種子銀行の巨大冷凍貯蔵庫、GM食品の長期にわたるラットによる発病の実験を行ったフランスの研究者に出会ったりすることで、明るみになってくるGM



食品の実態に言葉を失う…。どんな食べ物を家族で選択していくのか」その答えを見つけるまでの家族の物語です。

上映後の講演―兵庫の在来種保存会代表の山根 成人さん

種が食料を通じて権力につながっている世界の種子ビジネスに驚き、畑で野菜を育て種採りを始めた。有機農家でも種採りや在来種栽培をしている人は少ない。種が自滅するよう遺伝子を操作している作物からは種は採れない。農家は企業から種を買い続けなければならぬ。ビジネスの論理だけで突き進めば種が単一化していく。多様性を失った世界になれば人間は生きられなくなるのでは…

「長年、種や土と向き合い取り組んでこられた山根さんはユーモアたっぷりにお話されますが、その言葉の節々に人生哲学を感じました」

映画2 「ミツバチからのメッセージ」

ミツバチの大量死が報告されています。その原因がネオニコチノイド系農薬だと言われています。その農薬に当たったミツバチが神経を病み、巣に戻る事ができなくなったり、死んでしまっているのです。ミツバチがいなくなると農作物や果物もできなくなってしまうのです。人間にも環境にも大きな被害をもたらしているその実態を長崎、岩手を取材し映像化されたドキュメンタリー。

上映後の講演―山ハニーガーテン養蜂家大東 義弘さん

すべて手作り、農薬、人口肥料なども一切使わず、季節の花の蜜を風味そのままに瓶詰。花が咲き、蜜が出る植物は受粉しなければ実もできない。自然界で大切な役目をしていくれる蜜蜂。甲山鷲林寺の自然の中で木々、花々、蜜蜂と寄り添い新鮮な蜂蜜を作る日々。花の開花を見守る大東さんはとても爽やかですがその熱意や忍耐力の強さを感じました。マルシェではミツバチに変身した奥様が素敵でした」

映画3 「百年ごはん」

健全な魂は、健康な食べ物から。健康な食べ物は健全な土から。慣行農業から有機農業に転換する生産者や新しく農業を始める市民。安全安心の生産物を求める住民。大分県臼杵市の有機農業への取り組みの記録。100年単位で仕事に関わる人々の物語になっています。

ヨガ&シェアリング… 元町、ヨガスタジオスペースに主幸ぬんさん（榊原慶佑さん）

「ババ遺伝子組み換えってなあに」1000年「ごはん」上映後に身体をゆるめる椅子ヨガと映画のシェアリング。長時間の映画は身体も固くなり、内容は少し心が重くなるものです。ぬんさんのヨガで心身をほぐし、シェアリングへと。ぬんさんは、映画を観てからどう感じたかが大事と、シェアリング

を提案。

やさしく、おもしろく、導かれ、会場には笑みがあふれ、初めて会った人同士が感想を交わしやすい雰囲気となり、映画のメッセージが伝わった事を感ずるシェアリングとなりました。ぬんさんは今ヨガ指導者としてとても人気のある方です。聖者のような風貌で脱力されたムードの方ですが、大きくやさしいエネルギーを持たれた方の方です。」

◎上映会後には、マルシェ会場になっていたオーガニックビストロ「レギューム」でシェフによる、お料理を楽しみつつの懇親会。小東さんのお話やウクレレ演奏をお聞きして、小東さんの畑の在来種のお野菜を頂くという贅沢なひと時。その後は歌と演奏で盛り上がりました。トーク&ウクレレ演奏：たね・つち・ひと未来研究所主宰 小東和裕さん

固定種、在来種を中心にした生命力の強い昔ながらの野菜作り。その種を自家採取し、種の交換会をしたり、シードバンクに足を運んだりする中で種保存を広げる活動をしている。畑の名前は百菜畑。年間100種類、100歳まで野菜作りを続けたいという思いがこめられている。お仕事との両立はハードなはずですが、自然界からのエネルギーをたっぷり受けて、いつも自然体の笑顔の「コッヒー」さんにとっても和みました。」

人類のエゴによって地球の自然環境はかつてない危機を迎えています。種を守っていかねばなら

類の未来は危ういでしょう。ミツバチがいなくなれば野菜も果物も食べられなくなる…。遺伝子組み換えの食べ物、ネオニコチノイドの問題から目をそらすことはできません。子供達の未来を守るために、今、食を見直し、農地や種を守っていく事、その問題に向き合い、ひろめていかなければと思います。

来年8月上旬に引き続き映画祭開催が決まりました。自然界のあらゆる命、人類の命をつなぐためにも、まずは人間界が健全な価値観、生き方を取り戻すことを問われているのではないのでしょうか。この映画祭の仲間が来年2月 **遺伝子組み換えルーレット** 私たちの生命のギャブル上映会をします。

医学者、自閉症やアレルギーなど様々な疾患を持つ子の親、獣医が登場し、遺伝子組み換え食品によって人々や家畜にどんな健康の異変が起きているのかどのように解決できるのかが語り

られています。ヨーロッパでは遺伝子組み換えは禁止されていますが、日本はアメリカからまだ大量に輸入しているという現状です。この映画の日本語版の翻訳監修者でもあるオルター・トレード・ジャパン政策室の印鑰(いんやく)智哉さんの講演もあります。世界の食料、農業事情に詳しい平賀緑さんにもナビゲーターとして参加頂きます。是非ご参加ください。

問い合わせ先 08014455659 横山

2017、2/25土曜 13時〜 神戸学生青年センターホール(神戸市灘区山田町1-1)

姿斉クラスに参加して

上根 晴美

1994年1月に風邪がいつまでも治らないので、病院に行き、検査をすると

肝臓が悪いと言われ、特別な検査でC型肝炎と診断され入院。

インターフェロンを何回か打ち退院する、その後は、週1回打つための通院をする。



強いウイルスに罹っている、年齢がいくに從い肝硬変になり、肝癌になる寸前で高価な新しい注射を薬と注射をうけるが合わず、身体が弱り貧血が酷く入院し、輸血をして一命を取り止め、退院するとウイルスは無くなった。

寝たつきりから、少し動ける様になったので、今まで通っていた温熱(大野先生)と家に来てもらっていた整体を受け出した。

2014年9月に退院した後、毎日の生活が出来ないので、要介護の生活になりました。食事を作ってくれる人と、本人の事の手助けをしてくれる人と、家族の助けで命をつないでいました。

2015年2月に長い間病気をしていた妹が悪く

なり、見舞にも、行けずモタモタしている間に亡くなってしまいました。お別れには、なんととしても行きたく家族に支えられ、見送ることが出来ました。

やっと杖をつきよたよたと歩き始めた頃、サラシヤンティの方の所に置いてある何種類かのヨガ教室のパンフレットの中でどれが出来そうかとお聞きしました、すると **姿斉クラス**が良いのではと薦めてくださいました。

家のものが自分で少し動かないと歩けなくなると言われ杖をつきながら姿斉に行く。最初は四月より参加させて頂きました。一回出席すると2、3週間あっちこっちといういろいろなところに痛みがでる、治ると出席するという生活から月2回から3回にと、この8月は始めて、4回出席出来ました。

留学に行っていた孫が寝たつきりの時に、一度訪ねており、心配していましたが、今回教室と一緒に参加して、皆さまの様子、私の楽しく元気な姿を見て安心してくれました。

教室の若い皆様に助けられてレッスンを受け、続けられる喜びに感謝しているこの頃です。有難うございます。

陰ヨガ〜陰の概念に忠実なヨガ

身体に陰を取り入れるヨガ 田中 綾

陰ヨガは、陰陽五行思想に基づいたヨガです。陰陽五行思想とは中国の古い思想で、全ての現象には陰と陽があり、自然界は陰陽五行で成り立っている」という考えです。その概念は私達の身体にも応用されていて、自然界の法則の中で私達は生きています。例えば一日の生活で考えると、陽の時間である昼間には活発に動けるけれど、陰の時間である夜には眠くなり活動量が減ります。

活動と休息を繰り返し、私達は生活しているのですが、24時間動いている現代社会の中でこの法則に逆らう生活をしてしまうと、身体のバランスを崩すこととなります。このような社会の中で陽過多になりがちな私達に、陰という休息、リラクゼーションを補うのが、陰ヨガの大きな目的の一つです。

気の巡りを調えるヨガ

中医学では、私達の身体は体内を巡っている「気」という生命エネルギーのおかげで機能していると考えます。「気」は経絡という情報伝達回路を通じて全身を巡りますが、経絡内で気が滞ると臓器の機能が弱まり体調を崩すこととなります。陰ヨガはポーズやポーズの流れを使って滞りをなくし、体内で気がバランス良く働けるように調整していきます。

一般的なヨガやストレッチに似たポーズですが陰ヨガのポーズは取り方が独特で、吐く呼吸で筋肉

の力を抜きながら、少し長くポーズを保ちます。そのようなにして、筋肉という外側の縛りを外し関節を自由にし、その可動域を広げていくことで、経絡内を気が巡るのを助けていきます。ゆったりとした動きの少ないヨガですから、体力のない方、疲れている方、年齢的に躊躇されている方にも無理なく受けていただけたらと思います。

季節の陰ヨガシリーズ

自然界の気の流れ、すなわち四季にライフスタイルを合わせていくことが、健康の秘訣だと教えている中医学。季節の陰ヨガシリーズでは、その中医学の考えを取り入れた陰ヨガ講座とプラクティスをしていきます。季節の変化に応じて、例えば寒い冬には冷えやすいなど、起りやすい不調があります。その不調を調べていく、あるいは予防していくために、季節ごとの講座を開催しています。病院に行くまでもない、小さな心身の不調が気になる方に役立てていただきたい講座です。

陰ヨガを受講されている方の声

陰ヨガは、気の巡りが良くなるため血行が良くなります。まずはむくみが取れ、冷えが解消されたという方がたくさんいらっしゃいます。また、私も経験者なのですが、ひどい肩こりから偏頭痛を定期的に起こしていたのがほぼなくなりまし。四十肩の方も痛みのあるポーズは避けて参加していたら、治りが早かった気がするとおっしゃいます。

また気持ちの面でも、楽になったと言われる方が

いらつしやいます。前述のとおり、無理をしないこと、リラックスをすることを頑張るヨガなのでいつも全力疾走されている方や、休むことは良くないと思われていた方が、リラックスしている自分にとが許せるようになったとか、子供に対してヒステリックにならなくなったなど、穏やかな気持ちでいられるようになったという声を聞きます。

プロフィール

田中綾(たなかあや)

2011年渡辺純子先生のワークショップで陰ヨガに出会い、体も心も緩ませ元気を満たすこのヨガに魅了されて、JunoStyle 陰ヨガ指導者養成講座を終了。以来、ジュノスタイル陰ヨガ講座や神戸で開講しているお友達レッスン+で、陰ヨガを専門に伝えています。

Blog ⇨ <http://ameblo.jp/avasan3/avatanaka>

